



“世界卓球”が、男子は中国、女子はシンガポールの優勝で幕を閉じました。女子は番狂わせと言っていいでしょうね。日本も、男女ともに銅メダルを獲得し、よく頑張ったと思いますよ。若い選手中心のチーム日本が、世界と対等に渡り合える日も近いなと感じました。

テレビを観戦していると、勝負の“あや”がよく見えてきます。あの1本で流れが変わったなど感じる場面がよくありました。その“あや”で力を発揮できるようにすることが、勝負強いということだと、強く感じました…。

町民相撲大会に参加しました(5/30)



今年も、豊小児童は相撲大会で、精一杯頑張ってくれました。開会式では、卒業生の望月政利君が名司をし、中野雄貴君が立派に選手宣誓をしていたので、とても頼もしく思いましたよ。その他にも、大岩拓也君はじめ大勢の中学生がボランティアとして協力していましたね。(さすがです。)

水谷光希君は、昨年度に続いて、模範相撲をとってくれました。ご苦労さんね!

高浪晏任君は、最初は優しい気持ちから涙ぐんでいましたが、立派に敢闘賞を獲得できましたね。

優 勝...松田一輝君
第3位...蟹本華蓮さん
敢闘賞...山本恵冴君、高浪晏任君



実は、堀江協会長の指揮で行われた相撲体操の影響で、私はまだ筋肉痛なのです。(情けないね~。)

“元気な教育実習生”がやってきましたよ(5/31)



久保田修子先生

<出身地>...内海
<家族>...4人
<趣味>
スポーツ・旅行

<好きな言葉>...一生懸命

<みんなへのメッセージ>

まず初めて豊浜小の皆さんと出会ったときに、元気よさに驚きました。私も皆さんに負けないくらい、毎日楽しく元気よく過ごしたいです。私を見かけたら、どんどん話しかけてくださいね! 4週間、よろしくお願ひします。



西村侑華先生

<出身地>...師崎
<家族>...5人
<趣味> 旅行
買い物・雑貨屋巡り

<好きな言葉>...Smile is best.

<みんなへのメッセージ>

養護教諭をめざし、お世話になります。皆さんの元気いっぱいの笑顔に包まれた学校で過ごせる時間を大切にしていきたいと思ひます。気軽に声をかけてくださいね。私もみんなより先に声をかけられるようにがんばります!

ショートストーリー！

5月27日、1年生の子どもたちが学校探検をして、校長室を訪問してくれました。部屋にあるどんなものにも興味津々で、みんな瞳が輝いていましたよ。

ちょうど西駐在所の大森さんが来校中でしたが、大森さんも、かわいい訪問者に目を細めていました。(本当に子供がお好きなようで、心強く感じました。)

私は訪問のお礼に、“豊小音頭”の踊りを一緒に踊りました。さすが1年生、リズム感抜群ですね～。特に、山下涼馬くん、鈴木奏澄くん、山田優真くん、家田瑞月くんは、“のりのり”でした。榊原旭人くんは、「音楽を聞かせてくれて、ありがとうございました。」と、きちんとお礼が言えましたね。みんな、学校にすっかり慣れた様子で、安心しましたよ。豊小の伝統を引き継いでくれる、大切な子どもたちです。



5月28日、大放課に榎本光希くんが、澤田龍志くんと連れだって、鯉のエサの予約に来ました。11時から出張だったので、二人と一緒に「はきもの点検」に回りました。2階の3年生の教室にさしかかると、齋藤萌香さんと家田采和さんが体育館シューズをきちんとそろえてくれていました。

3階へさしかかって窓から体育館の方を見ていると、高下先生がきちんと向きをそろえて、相撲の稽古のために中へ入っていく様子が見えました。3人で顔を見合わせて、「えらいねっ。」と言いました。かなり意識は高まってきたけれど、トイレについてはまだまだです。根気強く、指導を続けていきたいと考えています。

5月28日、知多郡PTA連絡協議会の総会に、小学校・中学校の役員さんと一緒に、東海市まで出かけました。そこで、フリーアナウンサーの千田伸子さんの『子供の心を育む 聴き方 話し方』というお話を聞きました。参考になるいいお話でしたので、かいつまんでお知らせしますね。

相手によって話し方は変えるべきである。(兄弟であっても個性は違うから。)
親が先回りせず、子供に文章(単語ではなく)でしゃべらせるように工夫する。
幼少時は自立の芽を摘まないように、思春期はきちんと言語化させる工夫を
話を聴くとは、仕事の手を止めて、その子の方を向いて受け止めることである。
父性とは、母親のストレスをとってやることも重要な仕事である。
夫婦げんかを見せてしまったら、仲直りするところまで見せるのが親の責任
話をとことん聞いてあげること。(語尾を繰り返すことも有効である。)

ご一緒した役員さんも、「わ～、あてはまるわ～。」と言ってみえましたよ…。

5月29日、終日、青少年赤十字の研修会に参加しました。青少年赤十字活動とは、「気づき、考え、実行する」を合い言葉に、アンリ・デュナンの人道思想をもとに、優しさや思いやりの精神を育てようとする取り組みです。本校も趣旨に賛同し、加盟しています。

その中で、「ボランティアの押し売りはダメ」というお話がありました。そんなときは、「よかったら…。」という言葉添えるとよいことも学びました。さっそく、帰りの電車の中で、言葉を添えて席を譲ることができました。おばあさんの笑顔の輝きに、私も少しの幸せをいただいた気がしましたよ。(自己中心的な自分を反省する研修でした。)

“冬 耐えて 春 夢もって 夏 燃えて 秋 自分を見つめて

人生 感謝・感動で 生きてゆく”

須永博士